

■9月12日

ドンムアン空港、第2ターミナル改修、来年使用再開、処理能力3000万人へ拡大

(newscli.beによると)

タイ国営の空港運営会社エアポーツ・オブ・タイランド(AOT)は、バンコク北郊のドンムアン空港(旧バンコク国際空港)の旧第2国際線ターミナルビルを改修し、来年5月に供用を再開する計画だ。国内線ターミナルとして使用する。

改修予算は30億バーツ。国家経済社会開発委員会(NESDB)の許可を取得後、工事に掛かる。

第2国際線ターミナルビルは2006年、ドンムアン空港が民間定期商業便向け供用を停止して以来、閉鎖されているが、現在使用している旧第1国際線ターミナルビルの処理能力が限界に近づいてきたため、再開することにした。

現在の旅客処理能力は年1850万人で、今年の旅客数は1600万人になる見込み。第2の再開で処理能力は年3000万人に拡大する。

(newsclip.be)9/12

<http://www.newsclip.be/article/2013/09/11/18987.html> (-> <http://www.newsclip.be/article/2013/09/11/18987.html>)

中国東方航空、鹿児島—上海線、冬季ダイヤ運航継続、県の取り組みを評価

鹿児島—中国・上海便を運航する中国東方航空が、10月下旬～来年3月の次期運航ダイヤでも、週往復2便の運航を継続することがわかった。同社は継続の理由として、県職員の上海研修などの取り組みを評価した。

読売新聞によると、同社は今月、次期運航ダイヤの決定に先立ち、伊藤知事に文書を送付。「県の一連の措置がなければ、路線の維持は難しかった。県総力あげてのご支援により、撤退を回避し、路線の安定運航ができるようになった」と取り組みを評価した。

鹿児島—上海便は、尖閣問題に端を発した日中関係の悪化や、鳥インフルエンザの影響などで、4～8月に計13往復が欠航。平均搭乗率は5月が32.2%、6月が46.3%で、存続に必要な50%を2か月連続で下回っていた。

このため、県は職員ら1000人を7月～来年3月に研修で派遣する計画を発表。県民や県議会の反発を受けて民間を含む300人に縮小し、7～9月分の事業費3400万円が県議会で可決された。派遣は7月10日から始まり、今月11日までに7陣で240人が派遣されている。

平均搭乗率は、研修が始まった7月が58.8%、8月は68.4%と上昇。県は10月以降の職員研修の見送りを決めたが、経済団体や銀行が計1500人規模の視察やツアーを打ち出し、今後も50%を超える平均搭乗率が見込まれている。

(読売新聞)9/12

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/kagoshima/news/20130911-OYT8T01404.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/kagoshima/news/20130911-OYT8T01404.htm>)

(南日本新聞)9/12

<http://373news.com/modules/pickup/index.php?storyid=51196> (-> <http://373news.com/modules/pickup/index.php?storyid=51196>)

鳥取県、鳥取・米子空港、東京便小学生無料—利用促進策を計画

鳥取県は、鳥取、米子鬼太郎両空港の利用促進と子育て支援を兼ね、東京便を利用する小学生の往復運賃を全額助成する「エアサポート」制度の創設を検討している。名付けて「子育て王国キッズエアサポート」。

県交通政策課によると、利用枠に上限はあるものの、子どもの飛行機代が無料というのは「他県にも例がない」といい、飛行機を利用しないファミリー層の掘り起こしと搭乗率アップを狙う。

(日本海新聞)9/12

<http://www.nnn.co.jp/news/130911/20130911007.html> (-> <http://www.nnn.co.jp/news/130911/20130911007.html>)

HIS、ホノルル空港、出発ゲート内に専用ラウンジオープン、旅行会社初

株式会社エイチ・アイ・エス(H.I.S.)は11日、ホノルル空港のターミナル内にH.I.S.のお客様専用のラウンジをオープンしたと発表した。広さは約230㎡のゆったりとした専用ラウンジでキッズスペースも用意されている。

通常はビジネスクラスなどを利用した場合に航空会社の空港ラウンジの利用が可能となるが、H.I.S.のハワイツアー(対象コース)であれば、エコノミークラスの利用でも利用することが出来る。

H.I.S.専用エアポートラウンジで無料抵抗されるサービス背弧の通り。

・軽食サービス・ドリンクサービス(ビール、ワインを含む)・日本の新聞や日本の雑誌・Wi-Fi、iPadステーション・キッズスペースも併設

(HISプレスリリース)9/11

http://www.his.co.jp/material/pdf/n_co_20130911.pdf (-> http://www.his.co.jp/material/pdf/n_co_20130911.pdf)

法務省、自動化ゲート、全国の空港へ展開、五輪開催に合わせ

法務省は空港での出入国の手続きを迅速にする「自動化ゲート」の増設を検討する。出入国審査場に設置された装置にあらかじめ登録したパスポートと指紋をかざすだけで自動的に出入国手続きができる優先審査の仕組み。

日本人と在留外国人を対象に2007年から導入しているが、五輪開催に合わせ対象を来日外国人にも広げる案が検討課題になる。設置済みの成田、羽田、中部、関西の4空港での増設のほか、国際線を就航している全国の空港でも導入を目指す。

また、羽田、成田両空港の発着枠拡充をにらみ、旅券審査などに当たる入国審査官も増員する方針だ。

(日経)9/11

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS1002O_Q3A910C1EA1000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS1002O_Q3A910C1EA1000/)

JTA、下地島空港で乗務員訓練を計画、来年9月以降

日本トランスオーシャン航空(JTA)が来年9月以降に操縦士の訓練飛行場としての利用を検討していることが10日、分かった。JTAは既に県に意向を伝えており、空港着陸料などに県の減免措置がどの程度適用されるのか、提示を待って調整を進める。関係者によると、県の誘致活動に対しJTAのほかにも複数社が好感触を示しているという。沖縄タイムスが報じた。

JTAの訓練利用が実現した場合、実機訓練のため約2カ月間使用する見込み。訓練数にかかわらず年額で使用料を払う「定額制」ではなく、1回当たりの着陸料をその都度支払う「従量制」での利用となる予定。

これまでJTAは訓練対象となる操縦士がいなかったことから、同空港の利用を困難視していた。しかし、操縦士の退社などに伴い、8月から9月上旬にかけて操縦士を募集。採用を経て来年9月以降に実機訓練を実施する見通し。

(沖縄タイムス)9/11

http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-09-11_53956 (-> http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-09-11_53956)

スカイマーク、8月、旅客輸送実績、利用率80.2%

スカイマークは10日、2013年8月の旅客輸送実績を発表した。これによると、全路線合計の提供座席は前年同月比6.2%増、合計搭乗者数は70万4,032人だった。平均利用率は80.2%と前年同月と比べて、1.8ポイント上昇した。

7月10日より新規就航した成田—石垣線の搭乗率は82.6%、神戸—石垣線は62.6%、那覇—石垣線も65.6%と、7月より搭乗率が上昇した。

一方成田発着路線でLCCと競合する、札幌線の搭乗率は84.4%、福岡線73.8%、沖縄線81.1%と好調だった。

(スカイマークプレスリリース)9/10

http://www.skymark.jp/ja/company/investor_loadfactor.html (-> http://www.skymark.jp/ja/company/investor_loadfactor.html)

ティーウェイ航空(LCC)、佐賀-仁川線、航空券販売開始、キャンペーン運賃1,000円から

ティーウェイ航空は、12月20日に週3便で就航する佐賀-ソウル線の航空券を、13日午後3時から販売すると発表した。就航を記念して販売開始から2週間、3月30日までの各便先着25席に限り、片道運賃(燃油サーチャージ、空港利用料を除く)を1000円~3000円で提供する。

販売するのは12月20日から翌年3月30日までの搭乗分で、日本総代理店ティーウェイジャパンのホームページか電話で受け付ける。4月2日以降の分は、夏ダイヤの確定後になる。

(佐賀新聞)9/11

http://www.saga-s.co.jp/news/saga_0.2548344.article.html (-> http://www.saga-s.co.jp/news/saga_0.2548344.article.html)

(佐賀県庁 プレスリリース)9/11

<http://digitalpr.jp/r/5251> (-> <http://digitalpr.jp/r/5251>)

アンガラ航空、2014年夏、地方空港-イルクーツクのチャーター便を計画

イルクーツクのアンガラ航空は2014年夏、日本の地方からイルクーツクへのチャーター直行便を運航する計画だ。ステラ・ジャパン代表取締役の小野寺弘樹氏によると、2013年7月26日、イルクーツク州政府観光局と2Gとともに、日本-イルクーツク間の旅行に関する議定書にサインした。議定書では、両国間の旅行需要拡大のための関係強化や、航空路線の発展、旅行振興をはかるとしている。トラベルビジョンが報じた。

また、小野寺氏によると、アンガラ航空ではイルクーツクへの直行便として、西日本発をメインに販売していく考えだという。

使用機材はアントノフAn148-100E型機で75席。直行便でバイカル湖を訪れられるなどのメリットを売りに、旅行会社への販売を進めていく。7月の夏休み期間に5、6本運航を計画している。

(トラベルビジョン)9/11

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58759> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58759>)